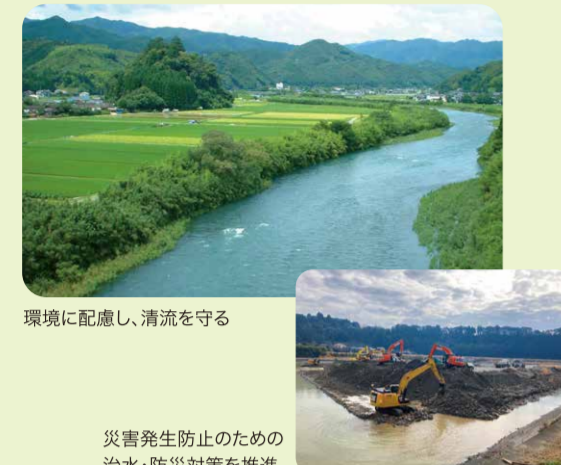


1 令和2年7月豪雨からの創造的復興

球磨川流域全体の総合力による「緑の流域治水」を推進し、愛する地域で誰もが安全・安心に住み続けられ、若者が“残り・集う”持続可能な地域の実現を目指すとともに、県内全域において、災害に強い郷土づくりに取り組みます。

命と清流を守る緑の流域治水

生命・財産を守る安全・安心の最大化と環境への影響の最小化のベストミックスを目指します。



環境に配慮し、清流を守る
災害発生防止のための治水・防災対策を推進

すまい・なりわいの再建



【地域支え合いセンターの訪問活動】
一人一人に寄り添い、それぞれの世帯の意向に沿った住まいの再建を目指します。また、なりわい再建支援補助金などによる事業再建や仮設商店街の開設支援などに取り組みます。



幹線道路の整備



【九州中央道(小池高山IC)】
九州圏内のリダンダンシー(※)確保のため、幹線道路の整備を行います。
※交通ネットワークの多重化など

2 新型コロナウイルス感染症を踏まえた対応

感染拡大防止と、大きな打撃を受けた県経済や県民生活の回復とのベストバランスを図るとともに、社会の変容を好機と捉え、ICTなど新しい技術を取り入れ、熊本の更なる発展につなげます。

感染症対策の体制強化



相談・受診・検査体制の充実や病床確保、ワクチン接種体制構築などに取り組みます。

スマート農林水産業の推進



【自動トラクタ等の運用実証】
農林水産業の持続的発展を図るため、ICT等による生産性向上などに取り組みます。

デジタル技術を活用した新たな観光スタイルの確立



【ワーケーションの取り組み】

余暇を楽しみながら仕事を行うワーケーション(※)や、SNSなどにより情報発信・分析を行うデジタルマーケティングに取り組んでいます。
※「ワーク」と「ケーション」を組み合わせた造語

新しい県政運営の基本方針を策定しました

熊本地震と令和2年7月豪雨からの創造的復興を両輪に、新型コロナウイルス感染症による社会の変容を見据え、持続可能な「新しいくまもと」を創造します。

県では、令和5年度(2023年度)までに重点的に推進する主な取り組みの方向性を明らかにした「新しいくまもと創造に向けた基本方針」を策定しました。その取り組みについて、一部紹介します。

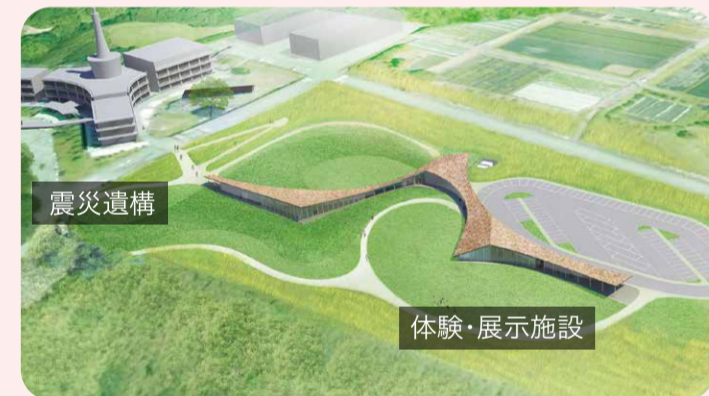
このほかの取り組みなど詳しくは
新しいくまもと 基本方針 検索



3 熊本地震からの創造的復興

熊本地震からの創造的復興の総仕上げに向け、残された課題を確実に解決し、熊本の更なる発展につなげます。

熊本地震震災ミュージアム



【中核拠点(旧東海大学阿蘇キャンパス)の全景イメージ】
熊本地震の記憶や教訓等を確実に後世に伝えるため、県内各地に点在する震災遺構等を巡る回廊形式のフィールドミュージアム「熊本地震震災ミュージアム」の取り組みを進めます。中核拠点の体験・展示施設(南阿蘇村)は、2023年度にオープン予定です。

大空港構想



【阿蘇くまもと空港の新旅客ターミナルビルのイメージ(熊本国際空港株式会社提供)】
阿蘇くまもと空港とその周辺地域を一体の「大空港」と捉え、空港のポテンシャルを最大限に引き出し、空港周辺地域の活性化につなげることを目指します。その一環として、新旅客ターミナルビルが2023年春に開業予定です。

UXプロジェクト



空港周辺地域を、医療、健康、食、農業などの新産業創出の拠点とするため、人・もの・技術・情報が集まり、有機的に結びつく新たな“知の集積”を図ります。



熊本県知事 蒲島郁夫

魅力ある学校づくり



【ICTを活用した授業の様子(翔陽高等学校)】
各高校の特色化と情報発信、高校間連携、地域との連携やICTの活用などにより、魅力あふれる学校づくりを進めます。

35人学級編制によるきめ細かな指導



令和3年度から全ての市町村立中学校の1年生に35人学級編制を導入し、きめ細かな指導を実現します。

CO2排出削減



2050年までに県内CO2排出実質ゼロを目指す取り組みなど、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進します。

4 将来に向けた地方創生の取り組み

豪雨災害、新型コロナウイルス感染症、熊本地震という喫緊の課題に対応する中でも、着実に進めていく必要のある施策に、優先順位を見極めながら取り組み、地方創生の実現につなげます。

熊本地震からまもなく5年

阿蘇へのアクセスルートの回復など、創造的復興が着実に進んでいます。

阿蘇へのアクセスルートの回復



①新阿蘇大橋(令和3年3月7日開通) ②国道57号北側復旧ルート(令和2年10月3日開通)

すまいの再建



③災害公営住宅(西原村山西団地)

国際クルーズ拠点整備



④くまモンポート八代内のビッグくまモン

益城町の復興まちづくり

⑤県道熊本高森線4車線化



【供用を開始した歩道(安永地区)】

⑥益城中央被災市街地復興土地区画整理事業



【完成した宅地(宮園地区)】

復興への歩み

| | | |
|-------|--------|-----------------------------------|
| 平成28年 | 4月14日 | 熊本地方でM6.5震度7地震発生(午後9時26分) |
| | 4月16日 | 熊本地方でM7.3震度7地震発生(午前1時25分) |
| | 11月14日 | 応急仮設住宅4,303戸全て完成 |
| 平成29年 | 8月27日 | 長陽大橋ルートの開通 |
| 平成30年 | 12月26日 | 公費解体と災害廃棄物処理の完了(同年4月時点99.9%完了) |
| 令和 元年 | 9月14日 | 県道高森線(俵山トンネルルート)全線開通 |
| 令和 2年 | 3月31日 | 災害公営住宅が1,715戸全て完成(写真③) |
| | 3月31日 | 県道熊本高森線4車線化(益城町)のモデル地区供用開始(写真⑤) |
| | 4月 1日 | 熊本国際空港(株)による阿蘇くまもと空港の運営事業開始 |
| | 6月30日 | 益城中央被災市街地復興土地区画整理事業の宅地引き渡し開始(写真⑥) |
| | 8月 1日 | 旧東海大学阿蘇キャンパスの震災遺構の公開開始 |
| | 10月 3日 | 国道57号北側復旧ルートおよび現道部が開通(写真②) |
| | 10月31日 | くまモンポート八代がプレオープン(写真④) |
| 令和 3年 | 3月 7日 | 新阿蘇大橋が開通(写真①) |